

令和6年8月20日

印旛地区教育研究集会

総合的な学習部会提案

研究主題

深い学びをめざした探究的な学習の創造

～印旛の特色を生かした総合的な学習の時間～



四街道市立大日小学校

1 研究主題

『深い学びをめざした探究的な学習の創造』

～印旛の特色を生かした総合的な学習の時間～

2 主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

小学校学習指導要領総合的な学習の時間に示されている目標は、以下のとおりである。

第1 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

改訂の要点③学習内容、学習指導の改善・充実では、「各学校は総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題を設定するとともに、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を設定するよう改善した。」と明記されている。

「今後の教育政策に関する基本的な方針」の中では、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられ、以下のように示されている。

ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められる。社会に根差したウェルビーイングの要素としては、「幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）」、「学校や地域でのつながり」、「協働性」、「利他性」、「多様性への理解」、「サポートを受けられる環境」、「社会貢献意識」、「自己肯定感」、「自己実現（達成感、キャリア意識など）」、「心身の健康」、「安全・安心な環境」などが挙げられる。これらを、教育を通じて向上させていくことが重要であり、その結果として特に子どもたちの主観的な認識が変化したかについてエビデンスを収集していくことが求められる。

また、今後の教育政策に関する基本的な方針の中では、「我が国の教育をめぐる現状・課題・展望」として伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が規定されている。「社会の現状や変化への対応と今後の展望」の中では、「予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していくという視点からは、『持続可能な社会の創り手』という学習指導要領前文に定められた目指すべき姿を実現することが求められる。その際、教育基本法の理念・目的・目標について規定されている普遍的価値を共有した上で、主体的な社会の創り手となる考え方が重要である。」と示されている。

(2) 学校教育目標から

学校教育目標 自ら学び心豊かでたくましい児童の育成 ～開拓者魂～

めざす児童像 だれもが元気大日っ子
いつもチャレンジ大日っ子
にこにこなかよし大日っ子
ちせい豊かな大日っ子

大日小の学区である鹿放ヶ丘は、戦後食料増産のために開拓された地域である。開拓者たちは寝食をとともにし、固い団結力で開拓を進めた。本校では、児童が地域に受け継がれる開拓者としての精神をもち、日々の幸せを感じる心、幸せを求める心と体を育むことを目指している。そのためには、児童がより主体的な学びの姿勢を身に付ける必要がある。また、他者との関わりから、互いを認め、高め合うことも重要である。

(3) 児童の実態から

本校の児童数は525人であり、通常学級18クラスと特別支援学級4クラスがある。本校は、今年で創立50周年を迎えた。市の北部に位置した本校は、学区に開拓された土地があり、開拓に関わった家族をもつ児童が在籍している。また、学区に広い土地が多く高速道路も近いことなどから自動車解体等に関する工場が多い。空港へのアクセスも良く、多くの外国人業者が参入してきている。新聞で「世界の中心四街道」という記事が掲載されたことからわかるように四街道市の外国人の人口は増加している。本校の外国籍児童は、全校の約15%在籍しており、外国籍児童が多いことが本校の特徴の一つである。

児童は素直で思いやりのある児童が多い。学習場面では、意欲的に取り組み、自分の考えをもつことのできる児童が多い。しかし、自分の考えを他者に伝えたり、友だち同士で意見交換をして課題解決したりする力が乏しい児童が多い。また、感染症対策の影響から、地域との交流の時間が十分に確保できないことが多かった。

上記の（１）～（３）を踏まえ、地域や本校の特色を生かした総合的な学習の時間を中心として、探究的な学習活動、協働的な学び合いを行うことにより、創造しながら深い学びができる児童を育成することが重要であると考え、本主題を設定した。

3 研究のねらいと内容

【研究のねらい】

地域の特色を生かした総合的な学習の時間を中心として、探究的な学習活動、協働的な学び合いを行うことにより、創造しながら深い学びができる児童を育成する。

【研究内容】

本校が目指す「創造しながら深い学びができる児童」を以下のように定義した。

- ① 自ら進んで探究し、問題解決することのできる児童（知識・技能）
- ② 地域の人や友だちと学び合うことのできる児童（思考力・判断力・表現力等）
- ③ 自己の考えを再構築しながら、他者へ発信しようとする児童（学びに向かう力、人間性等）

【仮説】

- （１）地域の特色を生かし、人との交流の場や表現活動の場を工夫すれば児童が課題を自分ごととして意欲が高まり、進んで探究活動に取り組むだろう。
- （２）探究的な学習の過程において、体験活動を取り入れた一連の学習活動となるような単元構成を工夫したり、話し合い活動の充実を図ったりすれば、児童相互の学び合いが生まれ進んで探究活動に取り組むだろう。

【手立て】

（１）協働的な探究の場の工夫

①特色を生かした単元計画

（３年）・外国にルーツのある児童が多い（２０名／９９名中）ため、児童の興味関心を高めるとともに、外国にルーツのある児童の活躍の場となるようにする。

- ・四街道市外国人住民人口の増加（令和６年度：３５１４名）。特に大日地区に多いことから、身近なこととして児童が主体的に取り組むことができるようにする。

（４年）・大日地区は開拓された地区であり、家族が開拓に関わっている児童もいる。また、学区内に、開拓に関する資料のある鹿放ヶ丘ふれあいセンターがあり、いつでも見学することができる点で、児童にとってとても身近である。課題を自分事として捉え、進んで学習に取り組むことができるように、児童にとって身近である題材を扱う。

② 専門家や地域の人との交流

(3年)・児童が課題を自分事として取り組むことができるように、四街道市国際交流協会や外国籍児童、保護者と繰り返し交流する場を設ける。

(4年)・鹿放ヶ丘ふれあいセンター、開拓に関わった保護者や地域の方々に授業協力者として参加してもらうことで、探究的な学習をすることができる環境を作る。

③ 表現活動の場の工夫

(3年)・四街道市国際交流協会や外国籍児童、保護者、地域の方への発表を通して、自分の成長を実感するとともに、自己有用感を高めることができるようにする。

・2学年への発表を行うことで、1年間の成長を実感できるようにする。

(4年)・児童の学習意欲を高められるように、一次では、リーフレットを作成し他者に伝えること、二次では、地域や学校全体の保護者に向けた学習発表会を設定する。

・児童が課題を自分事として捉え、進んで探究することができるように、交流会の企画、周知、実施をすべて児童が行うようにする。

(3) 学び合いの工夫

① 体験活動

(3年)・外国籍児童及び保護者から紹介してもらった遊びの体験を通して、意欲的に学習できるようにする。

・単元末の発表会の中では、調べた国の遊びを実際に行うことで、地域の方や保護者との交流するよさを感じることができるようにする。

(4年)・開拓者の思いや大変さを実感できるように、校内の土地を使い開拓体験をする。

② 思考ツール・・・資料編P4～6

③ ICT機器の使用・・・資料編P6・7

④ 環境づくり・・・資料編P8～11

・ゴールが明確にもてるように、学習の流れを教室に掲示する。

・学習の足跡を掲示することで、児童がいつでも学びを振り返ることができるようにする。

⑤ 各教科との関連・・・資料編P12～14

⑥振り返り

- ・前時の振り返りを生かして、本時の目的を持つ。
- ・文字数を意識した振り返り活動。
- ・単元の最後に自己の変容を見取る。

4 授業実践① 3年生「世界の中心・四街道」

(1) 単元設定の理由

前期の総合的な学習の時間では、「大豆博士になろう!」という単元で学習を行った。大豆を育てる活動と並行して、大豆の栄養や食べ方を調べ、ミライシードでまとめた。まとめたものは、学級や保護者に発表する活動を行った。育てる場面では、大日小学校の隣のA農園のAさんに畑の先生としてお越しいただき、おいしい大豆の育て方を学ぶ授業を行った。

本学級は、男子児童18人、女子児童15人の計33人である。そのうち、外国籍児童が6人おり、アフガニスタン2人、パキスタン1人、イラン1人、バングラデシュ1人、アラブ首長国連邦(ドバイ)1人と、国籍は様々である。うち4人の児童は、日本語の理解に差はあるものの、文字にしたり、自分の気持ちを日本語で伝えたりすることは難しい。また、他2人は本年度途中の転入生であり、日本語が全く分からないため、現地語や英語のできる友だちに通訳してもらって理解している。そのため、一斉指導で授業内容を理解することは難しく、自分の意見を発言できないことが多い。そこで、どの児童にも関心がある単元を設定し、総合の授業だからこそ学級全体で取り組むことはできないかと考えた。

学級の友だちの母国、学校や四街道市に住む外国から来た人の母国を調べることで、外国籍児童が活躍する場面が増えたり、一緒に話したりと、交流が深まると考えた。また、国際理解を深めるとともに、日本のよさを再発見できる機会にもなると考え、本単元を設定した。発表では、日ごろお世話になっている地域の方に相手意識をもつことで、自己有用感を感じ、どの児童も自信がつくようにしていきたいと考えた。

本単元は、友だちや地域の人々と関わりながら、学校内や四街道市内に住む外国から来た人の国の文化について情報収集を行う活動を通して、それぞれの国の文化への関心や理解を深め、国ごとに文化が違うことに気付き理解するとともに、協働して国ごとの文化やよさを伝えることで、探究的な学習のよさを理解することを目的とした。

まず、一次「四街道って本当に世界の中心?」では、インターネット記事「世界の中心・四街道」を読んで、四街道がどうして世界の中心なのかを話し合い、興味や関心を高めた。また、どんな国の人かどのくらい四街道に住んでいるのかを四街道市国際交流協会の方に話を聞いたり、インターネットで調べたりした。多くの人に来ていますが、どんな国かは知らないことに目を向けられるようにした。

次に、二次「Let's be world expert! ~調べよう!世界の国の文化~」では、

自分たちが伝えたい国を決め、調べ学習を行った。初めに、保護者や四街道市国際交流協会の方、外国から来た四街道市に住んでいる方にインタビューする活動を行った。そこで興味が高まった国を調べるようにすることで、主体的に調べ学習ができるようにした。伝えたいことが個々でバラバラにならないように、学級で統一した発信の目的（テーマ）を話し合ったり、誰に向けて魅力を発信するのかを明確にしたりする活動を行い、三次での活動の見通しをもたせた。

三次「Let's be world expert! 伝えよう! 世界の国の文化」では、これまでに学習したことをもとに、グループごとに調べた国について発表する活動を行った。最終的には、お世話になった四街道市国際交流協会の方や地域の人、保護者に伝えることで、学習の有用感を味わい学ぶことの意味を自覚することができるようにした。そのためには、どんな発表だとよりよくなるかを考えながら、探究的な学習のよさを理解できるようにした。

以上の学習の流れを友だちや地域の方と協働して、課題解決に向かえるよう計画した。また、国語科「世界の人につたわるように」や「調べて発表しよう」、道徳科『いつかオーストラリアへ』など、これまでに学習した内容を活かしながら、教科横断的な学習になるようにした。

(2) 単元の目標

友だちや地域の人々と関わりながら、学校内や四街道市内に住む外国から来た人の国の文化について情報収集を行う活動を通して、それぞれの国の文化への関心や理解を深め、国ごとに文化が違うことに気づき理解するとともに、協働して国ごとの文化やよさを積極的に伝えることができるようにする。

(3) 単元の評価規準

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①国の特色やよさを知るとともに、文化にはちがいや共通点があることを理解している。 ②アンケートやインタビューを作成する際、相手を意識した内容や方法を用いて実施している。 ③課題解決のためには、他教科・領域と関連付けて解決することが有効であると実感している。	①生活体験や自身の課題を活かして、課題設定を行っている。 ②様々な情報収集の方法を考え、協力しながら収集している。 ②思考ツールや ICT 機器等を用いて情報を整理し、話し合いの場面で、自己の考えを述べることができる。 ④書く場面で、調べたことや自己の考えをわかりやすく表している。	①自らを肯定し、自信をもって活動に取り組もうとしている。 ②友だちや授業協力者と積極的に関わり、問題を協働的に解決しようとしている。 ③自分の住む地域にはいろいろな国の人が住んでいることから、多様性を認めながら生活しようとする。

(4) 指導と評価の計画 (全31時間 第1次7時間 第2次10時間 第3次14時間)

	ねらい・学習活動・手立て	知	思	態	評価方法
課題設定 (1)	<p>【一次 四街道って本当に世界の中心?】 ○「世界の中心は四街道」の記事を読み、外国から移住する人が多いことを知り、今後の見通しをもつ。 手(1)①</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">四街道に住む人はどこの国から来たか調べよう。</p>			①	・発言内容 ・付箋紙 ・振り返りシート
情・収 (3)	<p>○四街道市国際交流協会の方に、外国から来た四街道に住む人の人数をインタビューする。 手(1)②</p>  <p style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-left: 20px;">四街道市国際交流協会の会長の方に、インタビューをしたよ。 四街道市には、3329人も外国から来た方がすんでいるんだって!</p> <p>○四街道に住む人はどこの国から来たか調べる。 手(2)②</p>	①	②		・振り返りシート ・情報活用
整・分 (2)	○わかったことをミライシードにまとめる。 手(2)②			④	・発表 ・振り返りシート
ま・表 (1)	○どこの国から来たか、学級で発表する。 手(2)②			④ ③	・振り返りシート
課題設定 (2)	<p>【二次 Let's be world expert! ~調べよう!世界の国の文化~】 ○新たな課題を設定する。 手(2)③</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">世界の国にはどんな文化があるのだろう。</p> <p>○二次の単元名を考えよう。 手(2)①</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">Let's be world expert!</p>			①	・発言内容 ・付箋紙 ・振り返りシート

○四街道市国際交流協会の方、地域に住む外国から来た方、外国籍の保護者の方に国の文化をインタビューする。

手 (1) ②

①
③

②

・行動観察
・振り返りシート



四街道市国際交流協会の方々や市内に住むアフガニスタン、 Bangladesh, 中国, 台湾, ベトナム, ベラルーシの方々にインタビューしたよ!





初めてヒジャブをまいたよ! にあうかな?





ベラルーシの食べ物はこんなものがありますよ! 子どもに人気の食べ物は、「ドラニキ」です。

○学級の外国籍児童の母国紹介

手 (1) ①

	 <p>○インターネットや本で自分の選んだ国の文化を調べる。 手(2)②</p> <p>○わかったことを記録し、整理していく。 手(2)②</p>				
整・分(2)	<p>○ここまでの学習を整理し、「誰に国の文化を伝えるか」を話し合う。 手(2)①</p> <p>○今後の活動の見通しをもつ。→「ポスターや動画、写真で魅力を伝えていきたい」 手(2)③</p>		③	①	・発言内容 ・振り返りシート
課題設定(2)	<p>【三次「Let's be world expert!! 伝えよう!世界の国の文化」】</p> <p>○これからの学習の計画を立てる。調べてきたことをだれに、どのように伝えていくか考える。 手(2)③</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>魅力が伝わる国しようかいをしよう!</p> </div> <p>○アンケート調査の内容を考える。 手(2)①</p>	②	③		・発言内容 ・振り返りシート
情・収(3)	<p>○アンケート結果を集計し、発表会での内容を決定する。 手(1)②</p> <p>○二次で調べた内容で足りない情報を調べたり取材したりして集め、ポスターを作る。 手(1)①, 手(1)②, 手(2)②</p>	②	②		・アンケート用紙 ・行動観察 ・振り返りシート
整・分(2)	<p>○もっと楽しくて伝わる紹介になるよう作成したものを 見直す。(国際交流協会の方に、作ったポスターの添削をしていただく) 手(2)①</p> 		③	②	・発言内容 ・振り返りシート
ま・表(1)	<p>○見直した発表やポスターの修正を行う。 【国語科「調べて発表しよう」と関連して作成】</p> <p>○保護者の方に向けたミニ発表会を行い、楽しくて伝わる紹介になっているかアドバイスをもらう。 手(1)②</p>		③	②	・発言内容 ・振り返りシート

<p>整・分(2)</p>	<p>○もらったアドバイスを基に最後の修正をする。 手(2)①</p>		④	①	<p>・行動観察 ・振り返りシート</p>
<p>ま・表(4)</p>	<p>○地域の人やお世話になった人を招いて、「Let's be world expert! 発表会」を開く。 手(1)②</p> 			③	<p>・行動観察 ・振り返りシート</p>
	<p>○2年生に「Let's be world expert! 発表会②」を開く準備をする。</p>  <p>○2年生に「Let's be world expert! 発表会②」を開く。 手(2)②</p>				<p>問題です。 アフガニスタンのあいさつ「サラーム」は、日本では何というあいさつでしょうか？</p> <p>中国ゴマ、いっしょにやってみませんか？ こうやってまわします！</p>

5 授業実践① 4年生

(1) 単元設定の理由

本学級は、授業中に積極的に発言する児童は全体の3割ほどで、自分の意見をまとめたり、他者に伝えたりすることが苦手な児童が多いが、明るく元気な児童が多い。少人数のグループ学習を行ったことで、少しずつグループの中で自分の考えを伝えられる児童が増えてきた。総合的な学習の時間の「人にやさしい四街道」では、進んで情報収集したり、グループで話し合い活動をしたりするなどして意欲的に学習している児童が多かった。

学校教育目標に含まれる「開拓」について、「意味を知っている」や「学校と開拓の繋がりを知っている」と回答した児童はほとんどいなかった。そこで、自分たちの住む大日地区の開拓の歴史について様々な方法で情報収集したり、地域の方と交流したりすることで、開拓の歴史や人々の思いを理解し、地域の一員として自分には何ができるのかを考えさせたいと思い、本単元を設定した。本単元を進める中で、思考ツールやICTを活用し、問題を協働的に解決することができるようにした。そして、地域の歴史や人々の思いを理解し、地域への愛着ある行動ができるようにしていきたいと考えた。

本単元は、大日地区の特色を調べたり、地域の方と交流したりする活動を通して、大日地区の開拓の歴史や人々の思いを理解し、地域のために自分にできることを考えることで、地域への愛着をもって行動しようとする心情を育てることをねらいとした。

大日地区は、戦争終結後に軍人、戦災者によって開拓された地区である。元々演習場であったこの地は、開拓者たち（当時15～17歳）によって、食糧増産のため緊急開拓された。何も無い土地を人や馬や牛の力で切り開き、田んぼや家や道路などを作り、人が生活できる場所を作り上げたという歴史のある地区である。

児童にとって身近な大日地区を扱うことで、課題意識をもちやすく、物事を自分事として捉えることができると考えた。情報収集では、実際に開拓一世やふれあいセンターの方から話を聞いたり、インタビューしたりすることで、情報収集能力や活用能力を高めた。また、畑づくりをするなどの開拓に関する体験学習を行うことで、児童の主體的な活動を促したり、体験を踏まえた知識を身に付けさせたりした。整理・分析では、ICT機器や思考ツールを使い学習することで、情報活用能力を高めたり、思考を深め分析する力を養ったりしていった。まとめ・表現では、発表会や地域交流会を開くことで、学習で得た知識を他者に伝えるような実践的な態度を養っていった。

事前アンケートの結果から、「自分の考えをまとめることが得意である」と回答した児童が48%、「クラスの前で進んで発表することができる」と回答した児童が41%であった。一方で、「少人数（3～4人）での話し合いの内容をまとめることが得意」と回答した児童が67%、「少人数（3～4人）の中で、自分の考えを進んで発表することができる」と回答した児童が70%であった。この

ことから、少人数での協働的な学習を取り入れることで、話し合いが活発になり、児童の考えを深めることができると考えた。「友だちがもっている悩みを解決したり、願いを叶えたりしてあげたいと思う」と回答した児童が82%、「地域の人のもっている悩みを解決したり、願いを叶えたりしてあげたいと思う」と回答した児童が85%であった。また、「地域の行事に進んで参加しようという気持ちがある」と回答した児童が83%、「地域の歴史に興味がある」と回答した児童が71%であった。このことから、地域のことに関する興味・関心が高いことが考えられる。そのため、地域や自分の周りの人の悩みを解決するような活動や地域の方との交流を取り入れることで、児童が主体的に学習に取り組むことができると考えた。

本単元では、児童の考えを深めたり、考えを整理し、まとめたりすることができるように、少人数での話し合いの場を設け、目的に合った思考ツールを選択し活用した。また、児童の主体的な活動を促したり、学習の楽しさを実感したりできるように、地域の方との交流や学校外へ発信するような授業作りをした。一次「リーフレットにまとめよう！～開拓の歴史や人々の思い～」では、学級毎に学習をする中で開拓に関する知識を獲得させる。二次「地域へ伝えよう！～開拓の歴史や人々の思い～」では、学年混合学習にすることで、自分の興味・関心がある課題を設定し、選択することができる学習環境を作り、主体的に学習できるようにさせる。また、他教科では関わりのない他学級の児童と交流をさせ、様々な考えに触れさせた。



(2) 単元の目標

大日地区の特色を調べたり、地域の方と交流したりする活動を通して、大日地区の開拓の歴史や人々の思いを理解し、自分にも地域のためにできることはないかを考え、協働して地域への愛着ある行動をしようとするようにすることができるようにする。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	評価の観点	
	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 大日地区の開拓の歴史や人々の思いについて理解している。 ② ふれあいセンターにおける活動(発表、案内板作り)を適切に行っている。 ③ 学習対象と自分たちの生活がつながっていることを理解している。	① 自分の関心から課題を設定し、解決方法を考えて追究している。 ② 目的に応じた対象を決め、自分たちの身近なところから情報を集めている。 ③ 思考ツールやICT機器等を用いて情報を整理し、話し合いの場面で、自己の考えを述べている。 ④ 相手に応じてわかりやすくまとめ、表現している。	① 自分のよさに気づき、自信をもって活動に取り組もうとするとともに自分と異なる意見や考えがあることに気づいている。 ② 友だちと積極的に関わり、問題を協働的に解決しようとしている。 ③ 自分の住む地域の歴史や人々の思いから、地域への愛着ある行動をしようとしている。

(4) 指導と評価の計画 (全35時間 第1次15時間 第2次20時間)

	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
課題設定 (2)	<p>【一次 開拓の歴史、地域の人々の思いとは?】→学級毎</p> <p>○学校教育目標の「開拓」の意味について話し合う。</p> <p>○「開拓」に関する写真を見せ、想像を広げ、「もっと知りたい」という思いから、課題を設定する。</p> <p>手(1)①</p> 		①	①	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・発言内容
リーフレットにまとめよう! ~開拓の歴史や人々の思い~					
情・収 (5)	<p>○インターネットや本を使い、「開拓」について調べる。</p> <p>○鹿放ヶ丘ふれあいセンターについて知る。</p> <p>○鹿放ヶ丘ふれあいセンターへ行き、開拓一世や施設の方から話を聞いたり、道具を見たりする。</p> <p>手(1)②</p>  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>見たこともない道具がたくさんありました。使い方や名前を開拓一世の方から聞きました。</p> </div>	①	②		<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・発言内容 ・ワークシート
整・分 (4)	<p>○開拓について調べたこと、見学に行きわかったことを整理・分析する。</p> <p>手(2)②③</p>		③	②	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート ・発言内容 ・行動観察 ・リーフレット



ま・表 (4)	<p>○整理・分析した内容をもとに、リーフレットを作成する。</p> <p>○開拓体験（畑づくりなど）をする。</p> <p style="text-align: right;">手（2）①</p> <p>○作成したリーフレットを鹿放ヶ丘ふれあいセンターや開拓一世の方に見てもらおう。</p> <p style="text-align: right;">手（1）③</p> <p>○鹿放ヶ丘ふれあいセンターや開拓一世の方からのビデオメッセージを聞き、「開拓について地域の人に知ってほしい」という思いがあることを知る。</p> <p style="text-align: right;">手（1）②</p>	③		②	・振り返りシート ・発言内容 ・行動観察
課題再設定 (2)	<p>【二次 地域のためにできることとは？】→学年混合</p> <p>○どのようにしたら地域の方に知ってもらえるかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> 地域へ伝えよう！ ～開拓の歴史や人々の思い～ </div> <p>○地域交流会について話し合う（場所、内容、時間など）。</p> <p style="text-align: right;">手（1）③</p> <p>○交流会を開くために、自分たちにできることを話し合う。</p> <p style="text-align: right;">手（2）①</p> <p>○チラシ、ポスター、紹介札の中で自分が担当するものを決める。</p> <p style="text-align: right;">手（2）③</p>	①	③		・振り返りシート ・発言内容



国語科の学習と関連付け、リーフレットを作成し、ふれあいセンター、開拓一世の方に見せに行きました。



「地域交流会を開き、地域の方に開拓について知らせたい」という思いが児童から出るように、ふれあいセンターの方からメッセージをもらいました。

整・分 (8)	○集めた情報をもとに、班ごとに担当するものを作成する。	④	②	・振り返りシート ・発言内容 ・行動観察	
	○授業協力者として、ふれあいセンターや開拓一世の方に来てもらい不明点はその都度聞く。	手(2)②③			
	○タブレットを使う場合は、ICT支援員の方に来てもらい、作成方法のアドバイスをもらう。	手(1)②			
	○作成した物の内容が適切か、見やすい内容になっているかを確認する。	手(1)②			
	○作成した物の内容が適切か、見やすい内容になっているかを確認する。	手(2)②			
		<p>授業協力者の方にも来てもらい、わからないことは聞きながら活動しました。</p> <p>⑧「開拓当時一番大変だったことは何ですか。」</p>			
		<p>よりよい物を作るために、整理・分析を繰り返しました。</p>			

ま・表
(5)

○チラシを保護者に配付したり，施設（ふれあいセンター，市役所など）に置いてもらったりする。

手（1）③

○地域交流会を開く。

手（1）③

○地域交流会に来てくださった方からのビデオメッセージやアンケート内容を伝え，単元の振り返りをする。

手（2）③

②

③

・振り返りシート
・発言内容
・行動観察



保護者や地域の方に開拓について伝えました。

Ⓜこの道具は「種を植える時に使いました。重くて大変だったそうです。」



開拓の歴史について紙芝居を作り，発表しました。

○3年生に「開拓発表会」をする。



③

・行動観察

6 仮説の検証

(1) アンケート結果から ※「はい」と回答した割合(%), ○…10%以上上昇

項目	3年生		4年生	
	事前	事後	事前	事後
	3年95名	3年99名 (転入生 4名増)	4年87名	4年87名
① 総合の学習の時間は好きですか。	80.0	91.2○	77.5	89.5○
② それぞれの時間は好きですか				
③ 調べる内容を決める時間	82.1	87.9	62.5	68.6
④ 調べる時間	88.4	89.1	77.5	77.6
⑤ 調べたことをまとめる時間	80.0	88.2	55.0	66.1○
⑥ 調べたことを発表する時間	64.4	75.9○	38.7	52.2○
⑦ グループでの話し合い活動	83.9	84.3	73.7	79.1
⑧ クラス全体での話し合い活動	64.1	77.1○	62.5	74.1○
⑨ 地域に住んでいる人と交流はありますか。	34.7	87.8○	59.0	70.3○

⑨総合の時間の学習をすると、どんな力がつくと思いますか。(自由記述)

3年

事前	事後
<ul style="list-style-type: none"> ・調べる力 ・考える力 ・タブレットのこつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のこと ・分かり合う力 ・発表する力や考える力 ・調べる力 ・話し合いの力

4年

事前	事後
<ul style="list-style-type: none"> ・考える力 ・調べる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・考える力 ・発表する力 ・調べる力 ・伝える力 ・協力する力 ・まとめる力 ・話し合う力 ・行動する力 ・判断する力

(2) 児童の振り返りから

	3年	4年
① 自ら進んで探究し、問題解決することのできる児童	<ul style="list-style-type: none"> ・調べている国のことがちょっとわかりました。他にも、食べ物やことばを分かります。 ・国際交流協会の方にもっとインタビューしたい。 ・まだまだ知らないことがあるから、インターネットで調べたい。 ・今日はみんなで食べ物や遊び、服を決めました。あとどうぶつだけです。次回もがんばります！ ・もっと分かりやすく楽しい発表になるようにPMIを使って考えた。直した方がよいところを次回やりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今日はあまりしらべられなかったから、じかいはもっと調べたい。 ・「見たい・行きたい・知りたい」と思わせるために、いろいろ意見をみんなで話して、もっといいすてきなキャッチコピーを作りたい！みんなでがんばる。 ・次はどんどん発表して、どんどん進めたい。 ・みんながなっとくするようにいろいろな人の意見を聞きたい。 ・Bにインタビューしたら、かいたくにくる人のねんれいが20代～40代なのかと思ったら、14さい～17さいといわれ、びっくりした。次回インタビューを生かしていきたい。 ・みんなが「きたい」と思うようなチラシを作ろうとおもいます。自分は作文がとくいなので、それをいかしてつくる。
② 地域の人や友だちと学び合うことのできる児童	<ul style="list-style-type: none"> ・みんながわたしの国のことを知らなかった。ちがう国のことももっと知りたい。 ・3-1の外国の友だちの住んでいたところが分かった。これからは、外国の友だちの知らないことがないようにしたい。 ・今日は国際交流協会会長の方が来てくれた。色々直しがあって、Cがいないと気づかなかったからありがたい。 ・Dといっしょにタブレットで調べた。いっしょに調べたら楽しかった。 ・わたしは、たてもとの遊びのたんとうだったけど、みんなとたすけあうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの内容が前よりレベルが上がった気がする。 ・Eにかいたくした人は、何さいくらい、何にんくらい聞けて、くわしく主人公を決められた。 ・しょう介ふだをしょう介し合い、ほごしゃやはんの人からアドバイスをうけ、見直すことができた。 ・しょうかい札のアドバイスをもらったら、前よりもよくなった。 ・皆がつけたいキーワードをとって、合体させたらいい意見になると思う。 ・見合った時に、友だちから、もうちょっと文を長くしたほうがいいよなどいろいろアドバイスをもらっていいしょうかい札を作れた。

<p>③ 自己の考えを再構築しながら、他者へ発信しようとする児童</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は班のみんなでキャッチコピーをやりました。(このキャッチコピーのことが)相手に伝わるか不安ですが、伝わったら嬉しいです。 ・今日はキャッチコピーを決めた。「日本とのかかわりのあるたてものがあるよ！知らないことがたくさん！ペラルーシ」これから、ペラルーシのことを知らない人たちに伝えられるように、がんばっていきたい。 ・発表に使うものの準備ができた。これからは、もっと伝わりやすく、楽しい発表にならないか試行錯誤したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでかくにんして、おかしな点をなおしていかんじにすることができた。 ・Fの輝くあせってといういけんにすごくなくとくした。光るや輝くという文しようはいれたい。 ・ふれあいセンターに行つて、わかったことをふせんに12こもまとめられて、自分でもすごくわかったんだとびっくりした。 ・他の人の意見をもらってしょうかいふだをよりよくわかりやすいように作り直せた。 ・キャッチコピーをつくる時、他のはんの意見をきいていろいろ思いつきました。
--------------------------------------	--	---

7 成果と課題

＜仮説1＞ 地域の特色を生かし、人との交流の場や表現活動の場を工夫すれば児童が課題を自分ごととして意欲が高まり、進んで探究活動に取り組むだろう。

- 「調べたことをまとめる時間は好きですか。」において、3年生、4年生ともに約10%上昇した。このことから、専門家や地域の人との交流を通して、情報収集、整理分析をすることで理解が深まり、まとめる時間の学習意欲が高まったといえる。
- 「総合の学習の時間は好きですか。」において、3年生が11.2%、4年生が12.0%上昇したことから、地域の特色を生かした本単元の学習を通して、児童が課題に前向きに取り組むことができるようになったといえる。
- 「児童の振り返りから①」において、「次は〇〇を調べたい」などの今後の学習意欲が高いと思われる表現が多くあることから、課題を自分ごととして捉え、進んで探究活動に取り組めたといえる。
- ▲他にもより身近な地域素材がないか、学校全体で教材研究を続けていく必要がある。

＜仮説2＞ 探究的な学習の過程において、体験活動を取り入れた一連の学習活動となるような単元構成を工夫したり、話し合い活動の充実を図ったりすれば、児童相互の学び合いが生まれ進んで探究活動に取り組むだろう。

- 「クラス全体での話し合い活動は好きですか。」において、3年生が13.0%、4年生が11.6%上昇した。思考ツールを活用したり、話し合う目的を明確に示したりしたことで、児童が他者と関わりながら進んで話し合い活動に取り組むことができたといえる。
- 「児童の振り返り②③から」において、友だちや地域の方のアドバイスや意見を聞くことで、自分の考えが再構築されたというような表現が多くあることから、相互の学び合いが生まれ、進んで探究活動に取り組めたといえる。
- ▲「グループでの話し合いは好きですか。」において、大きな上昇がみられなかったことやアンケートの自由記述から、話し合いの中で意見をまとめたり、より深めたりすることに対して難しさを感じていることが分かった。今後は、教員が想定する単元構想に合ったグループ編成や、各教科の中で適切にホワイトボードや思考ツールを活用しながら、効果的な話し合い活動ができるように研究を続けていきたい。

8 引用・参考文献

- 朝日新聞デジタル記事 「世界の中心」は千葉・四街道 外国人が集う「ヤード」の街で考えた
URL <https://www.asahi.com/articles/ASR1D6426R17UDCB008.html>
- 関西大学初等部 『思考ツールを使う授業』 株式会社さくら社 2014